

## ■ アンケート調査結果

### 1. 調査結果の概要

- ・アンケートの配布枚数 7,007 枚、回収枚数 3,395 枚で回収率は 48.5%である。
- ・町内の回収率は 51.1%と半数を超えているものの町外に避難している町民からの回収率が 22.2%となっている。

#### ① 結果概要

目的	復興計画行政素案及び今後の居住に関する住民意向の把握	
実施期間	平成 23 年 10 月 15 日（土）～平成 23 年 10 月 25 日（火）	
配布対象	山田町民の全世帯（世帯主に回答を依頼）	
配布・回収方法	町内	配布：広報に添付 回収：行政区長への提出
	町外	配布：広報に同封して郵送配布 回収：返信封筒による郵送回収
配布・回収状況	町内	配布枚数：6,364 枚 回収枚数：3,252 枚 回収率：51.1%
	町外	配布枚数：643 枚 回収枚数：143 枚 回収率：22.2%
	住所無記入	回収枚数：77 枚
	合計	配布枚数：7,007 枚 回収枚数：3,395 枚 回収率：48.5%

参考：前回アンケート(6月)  
世帯数：6,888 世帯  
回収数：3,161 枚  
回収率：45.9%

到着日	枚数	累計
10月	18日	44
	19日	97
	20日	235
	21日	14
	22日	0
	23日	0
	24日	148
	25日	599
	26日	181
	27日	766
	28日	283
	29日	0
30日	0	
31日	930	
11月	1日	196
	2日	42
	3日	0
	4日	1

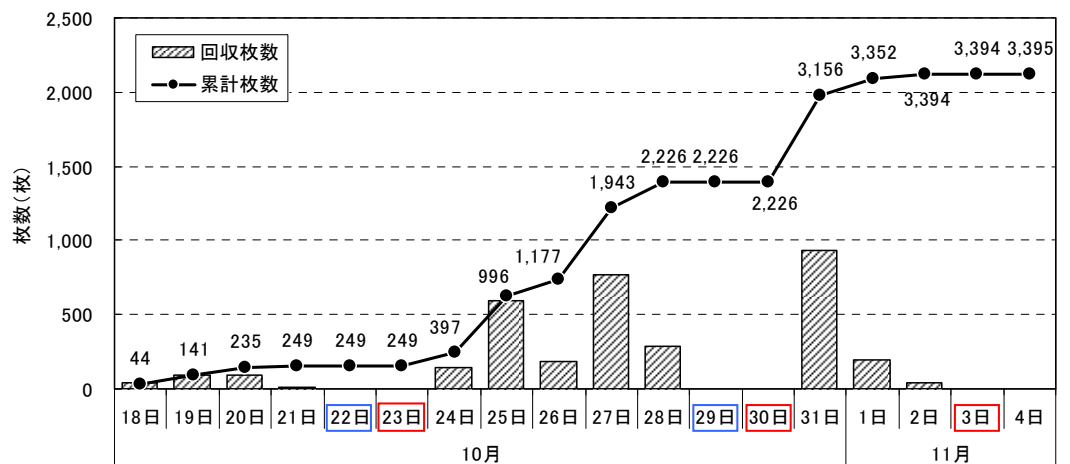


図 回収数の推移

## ② 地区別回収状況

- ・地区別に回収状況をみると行政区では田の浜が 69.7%で最も高く、仮設住宅では豊間根が 67.3%で最も高い。
- ・山田と柳沢北浜の行政区で約 3 割と回収率が低い。

地区名		配布枚数(枚)	回収枚数(枚)	回収率
大沢地区	行政区	381	192	50.4%
	仮設住宅	233	103	44.2%
	計	614	295	48.0%
柳沢北浜地区	行政区	291	88	30.2%
	仮設住宅	473	305	64.5%
	計	764	393	51.4%
山田地区	行政区	1,095	351	32.1%
	仮設住宅	212	131	61.8%
	計	1,307	482	36.9%
織笠地区	行政区	607	337	55.5%
	仮設住宅	469	253	53.9%
	計	1,076	590	54.8%
船越地区	行政区	656	392	59.8%
	仮設住宅	267	149	55.8%
	計	923	541	58.6%
田の浜地区	行政区	178	124	69.7%
	仮設住宅	50	31	62.0%
	計	228	155	68.0%
大浦・小谷鳥地区	行政区	230	133	57.8%
	仮設住宅	74	48	64.9%
	計	304	181	59.5%
豊間根地区	行政区	1,001	439	43.9%
	仮設住宅	147	99	67.3%
	計	1,148	538	46.9%
無回答・無効回答	行政区	—	68	—
	仮設住宅	—	9	—
	計	—	77	—
合計	行政区	4,439	2,124	47.8%
	仮設住宅	1,925	1,128	58.6%
	計	6,364	3,252	51.1%
町外		643	143	22.2%
合計		7,007	3,395	48.5%

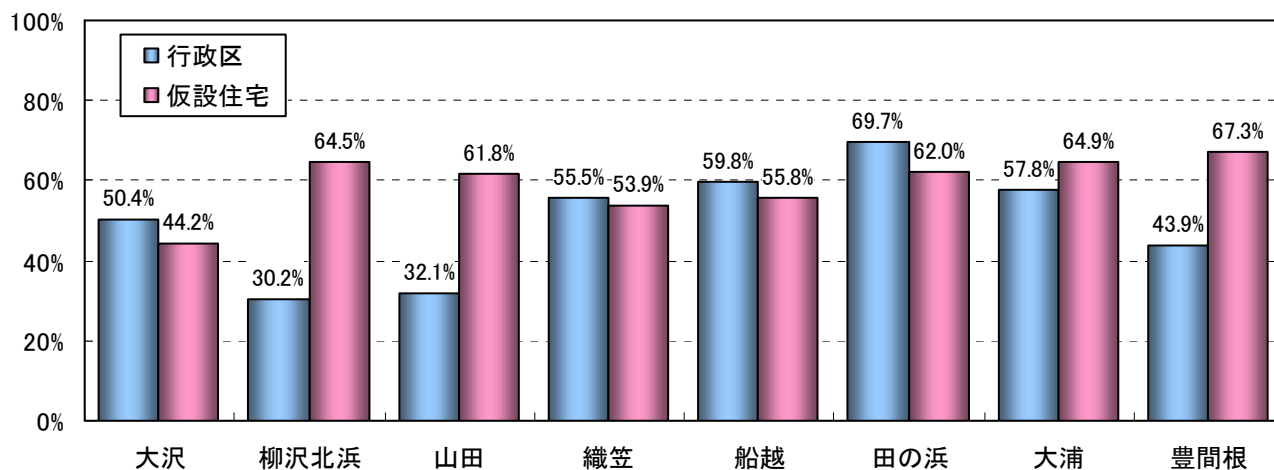
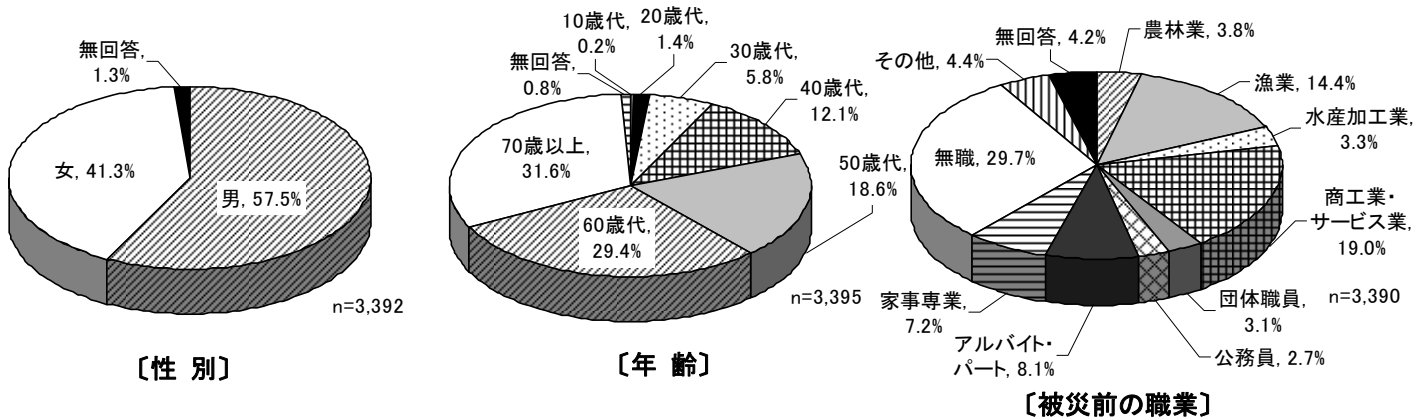


図 地区別回収率

## 2. 全体集計結果

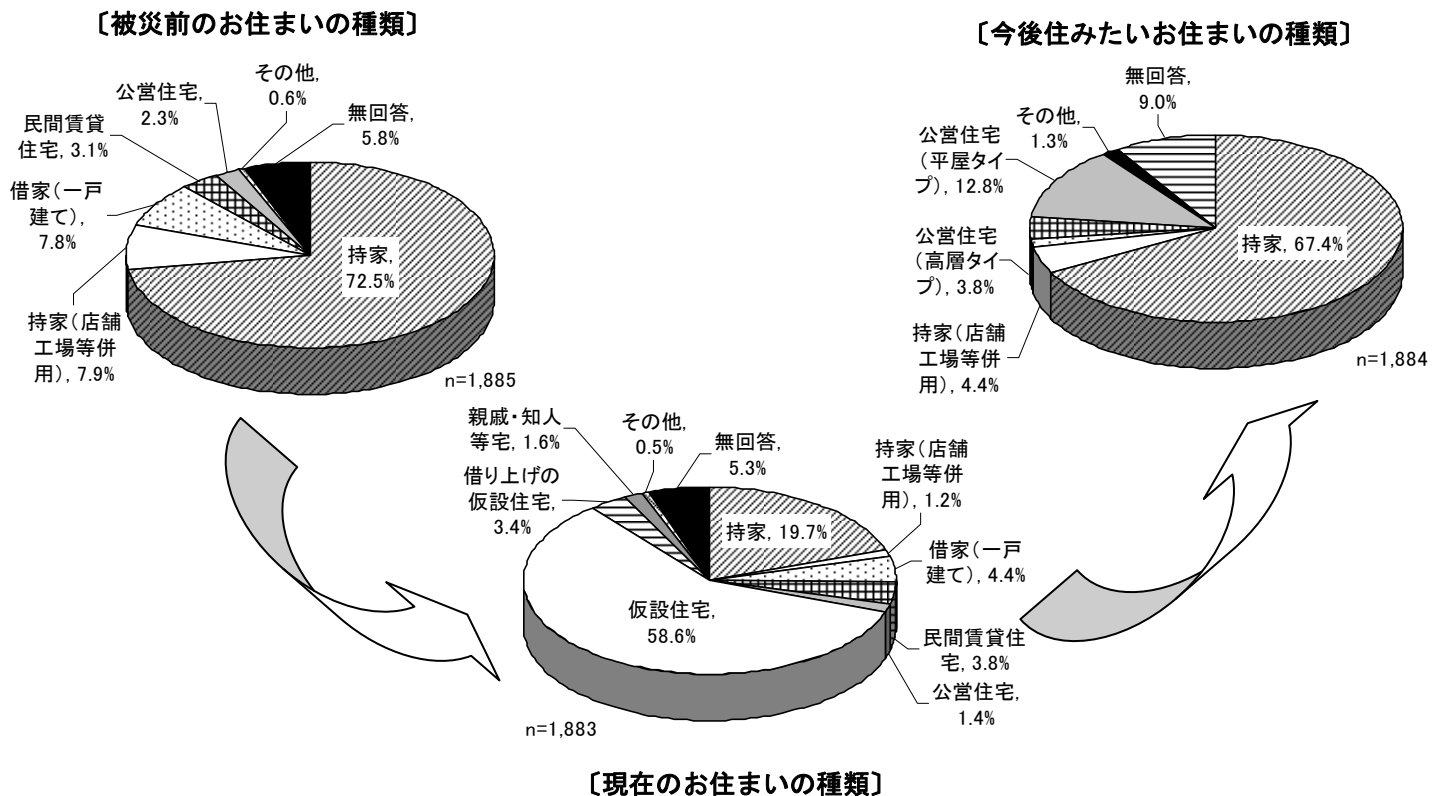
### ① 回答者属性

- ・今回のアンケートは世帯主を対象としたことから男性で高齢者の割合が高い。
- ・被災前の職業をみると無職が29.7%で最も多く、次いで商工業・サービス業が19.0%、漁業が14.4%となっている。



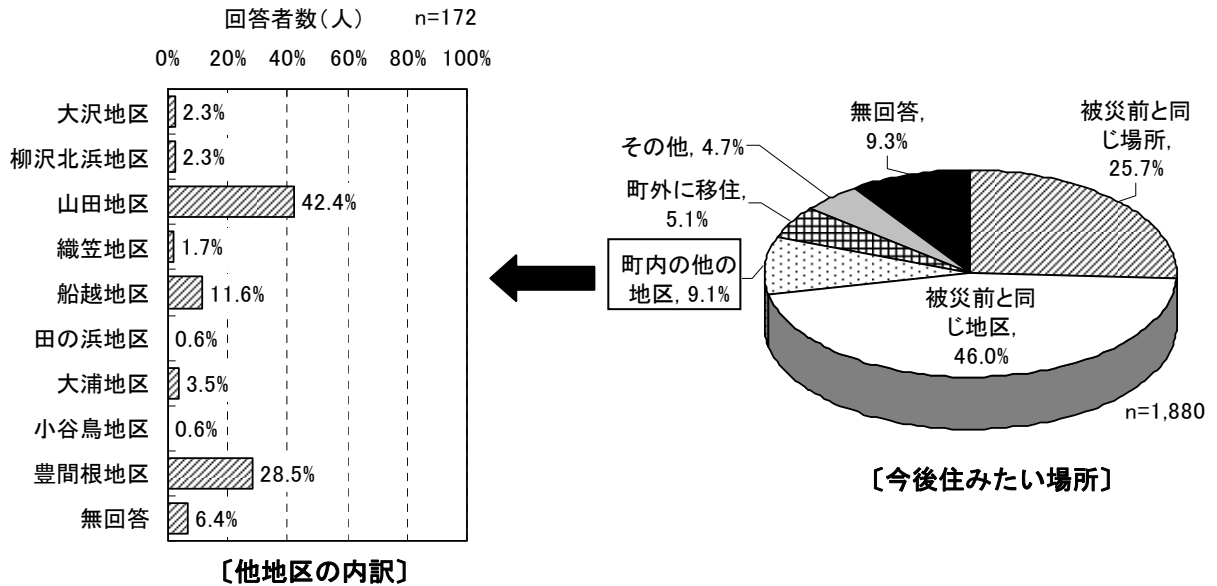
### ② お住まいの種類（被災した人を対象）

- ・被災前の持ち家比率は72.5%であったが今後住みたい居住形態の持ち家は67.4%となっており、5.1ポイント低下している。
- ・一方、公営住宅は、被災前は2.3%であったが今後住みたい居住形態では16.6%まで増加しており、その大部分が平屋タイプの公営住宅を希望している。



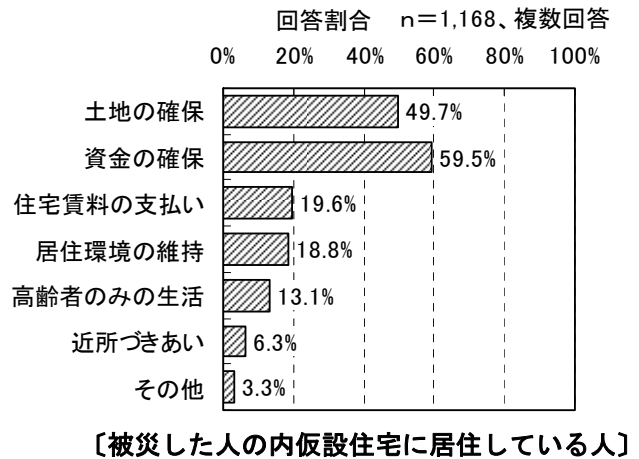
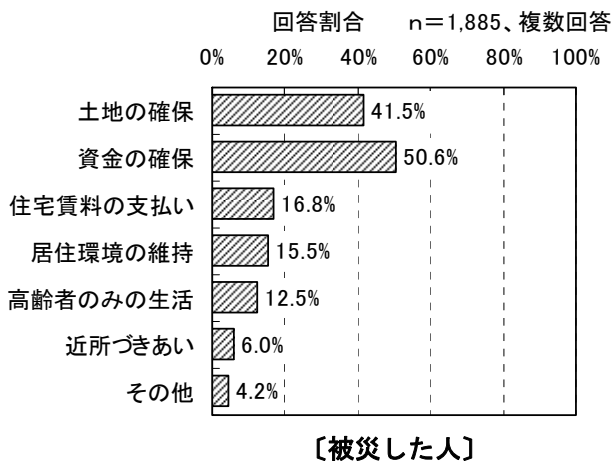
③ 今後住みたい場所（被災した人を対象）

- ・今後住みたい場所をみると、被災前と同じ地区が 46.0%で最も多く、被災前と同じ場所の 25.7%と合わせると7割以上の方が地区内に残ることを希望している。
- ・町内の他の地区と回答した人は9.1%おり、その移転先をみると山田地区が42.4%で最も多く、次いで豊間根の28.5%となっている。



④ 新しい家に住む上で不安に思うこと（被災した人を対象）

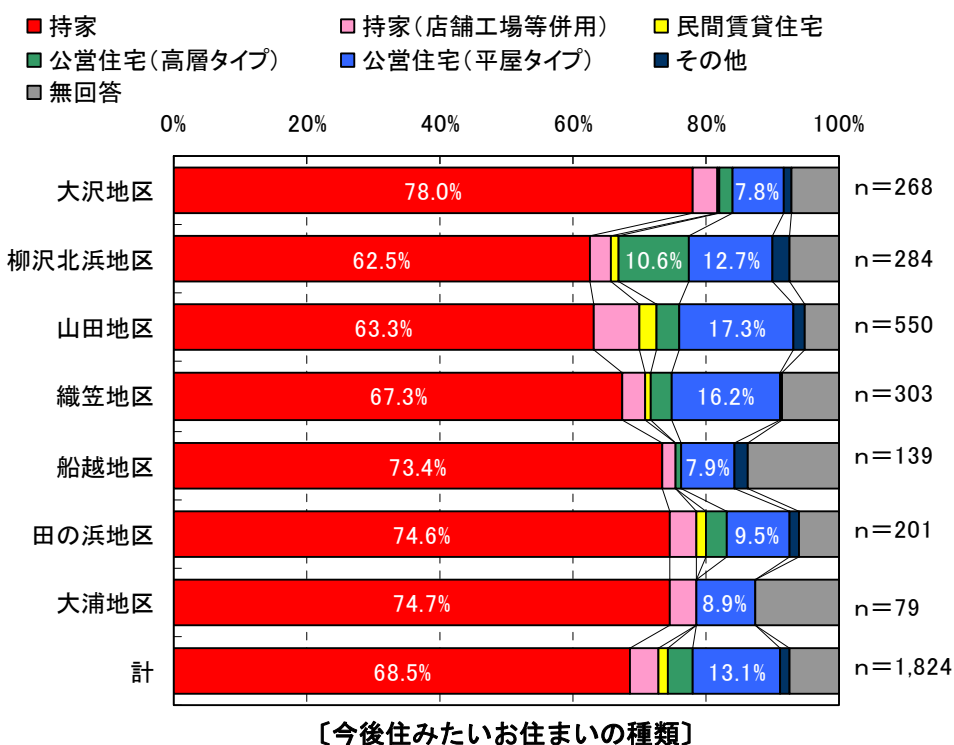
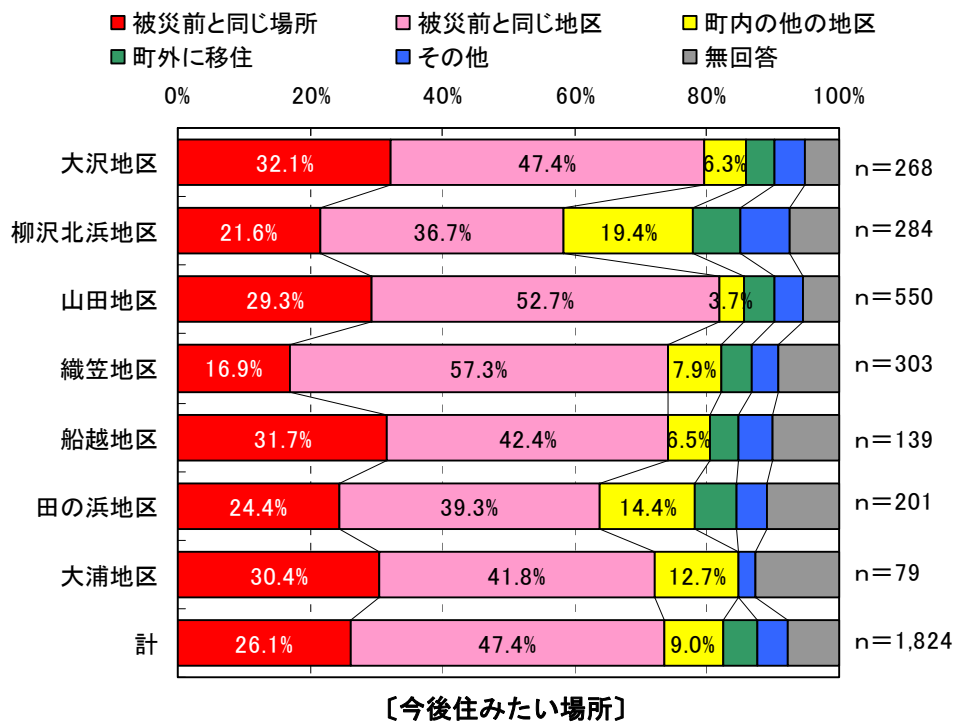
- ・新しい家に住む上で不安に思うことは、「資金の確保」(50.6%)と「土地の確保」(41.5%)の2つを大部分の人が回答している。
- ・被災した人の内仮設住宅に居住している人の不安に思うことをみると、「資金の確保」(59.5%)と「土地の確保」(49.7%)が高く全体の傾向と同じであるが、仮設に入居している人の方が不安に思っている割合が8~9ポイント高い。



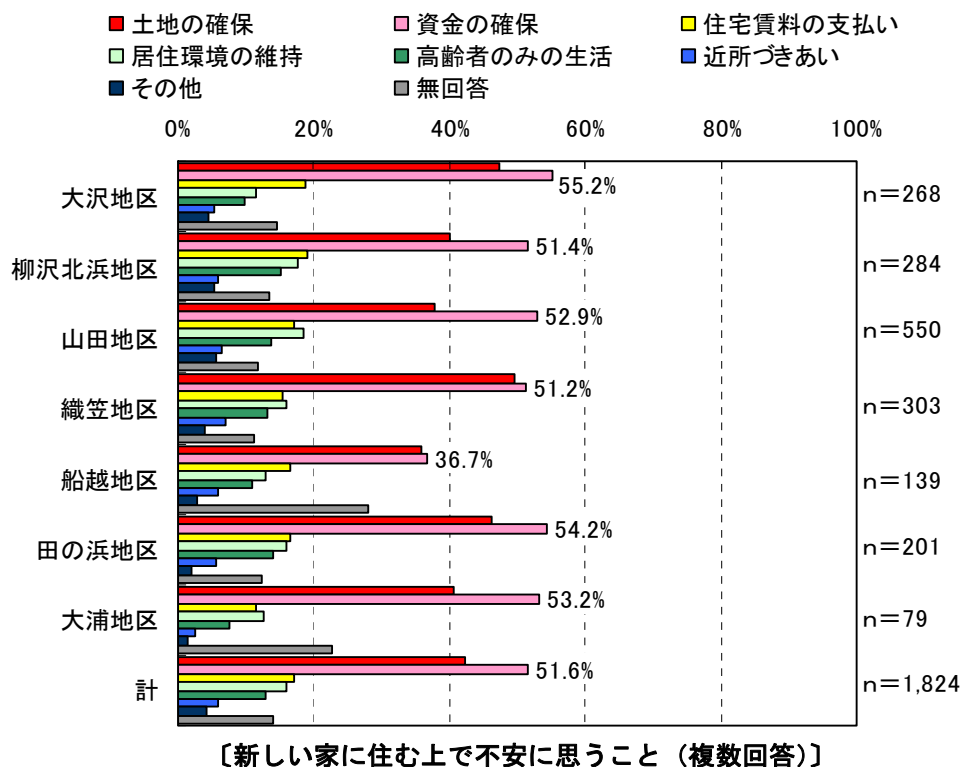
### 3. 地区別集計結果

#### ① 今後の住まいや生活について

- ・地区別に今後住みたい場所をみると、織笠地区と柳沢北浜地区、田の浜地区では「被災前と同じ場所」と回答している割合が低い。
- ・山田地区と織笠地区の半数以上の人々が、被災前と同じ地区に居住することを望んでいる。
- ・一方、町内の他の地区へ移転を希望している人は、柳沢北浜地区が 19.4%で最も多く、次いで田の浜地区の 14.4%、大浦地区の 12.7%となっている。
- ・今後住みたい居住形態をみると、約 1~2 割の人が公営住宅を希望しており、山田地区と織笠地区では平屋タイプを希望する人が多く、柳沢北浜地区では高層タイプを希望している人が他の地区よりも多い。

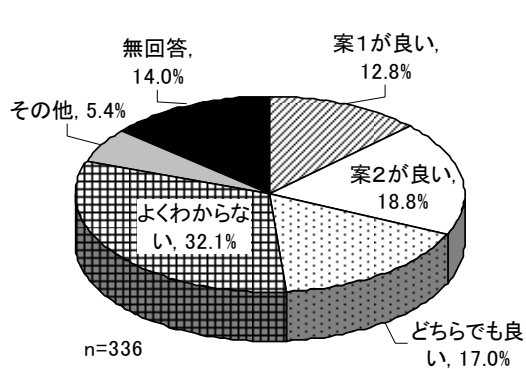


- 新しい家に住む上で不安に思うことをみると、大部分の地区で「資金の確保」が半数以上を占めているが、船越地区は被害が大きくなかったことから他の地区と比べて不安に思っている割合が低い。
- 織笠地区、大沢地区、田の浜地区では、比較的大規模な造成が必要となることから「土地の確保」に対する不安が他の地区よりも高い。

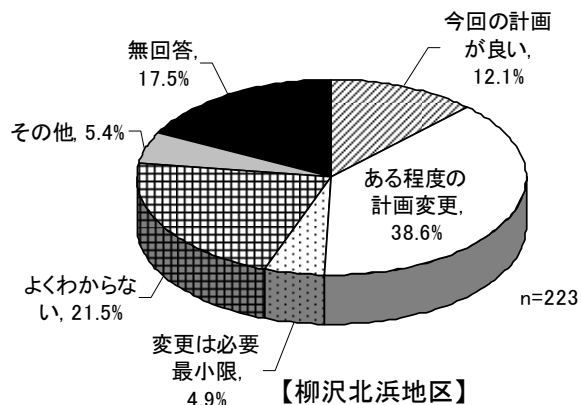


## ② 地区別復興計画（行政素案）について

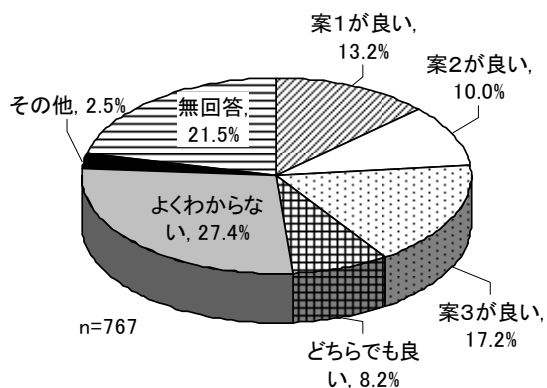
- ・ 大部分の地区で複数案の比較に対して大きな差はみられない。
- ・ 船越地区と田の浜地区は、案1の切り土と案2の盛り土で比較しており、両地区ともに案1の切り土を希望している人が多い。
- ・ 全地区ともに「よくわからない」と回答している人が約2～3割を占めている。



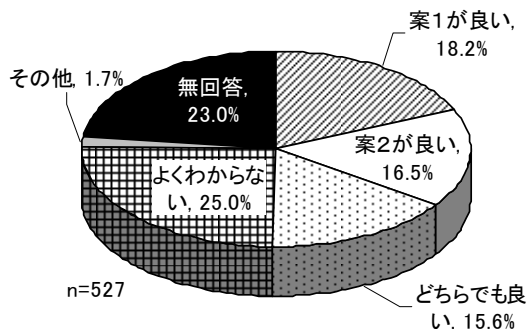
【大沢地区】



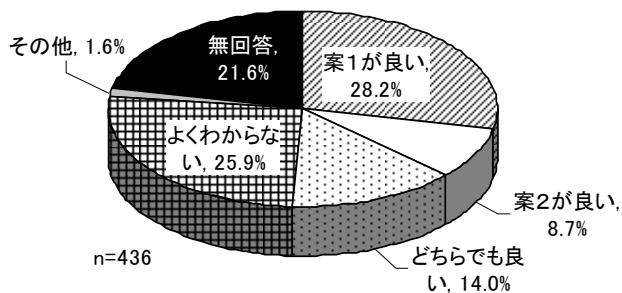
【柳沢北浜地区】



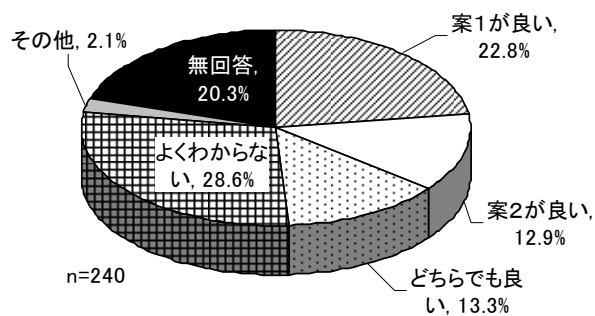
【山田地区】



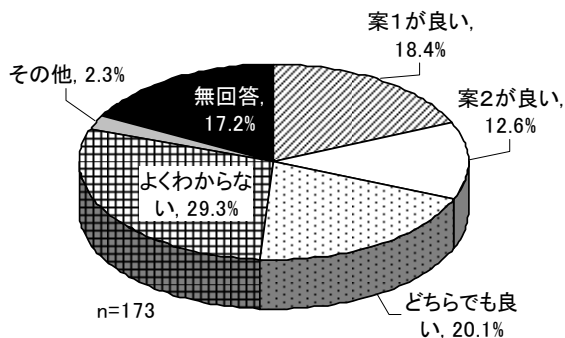
【織笠地区】



【船越地区】

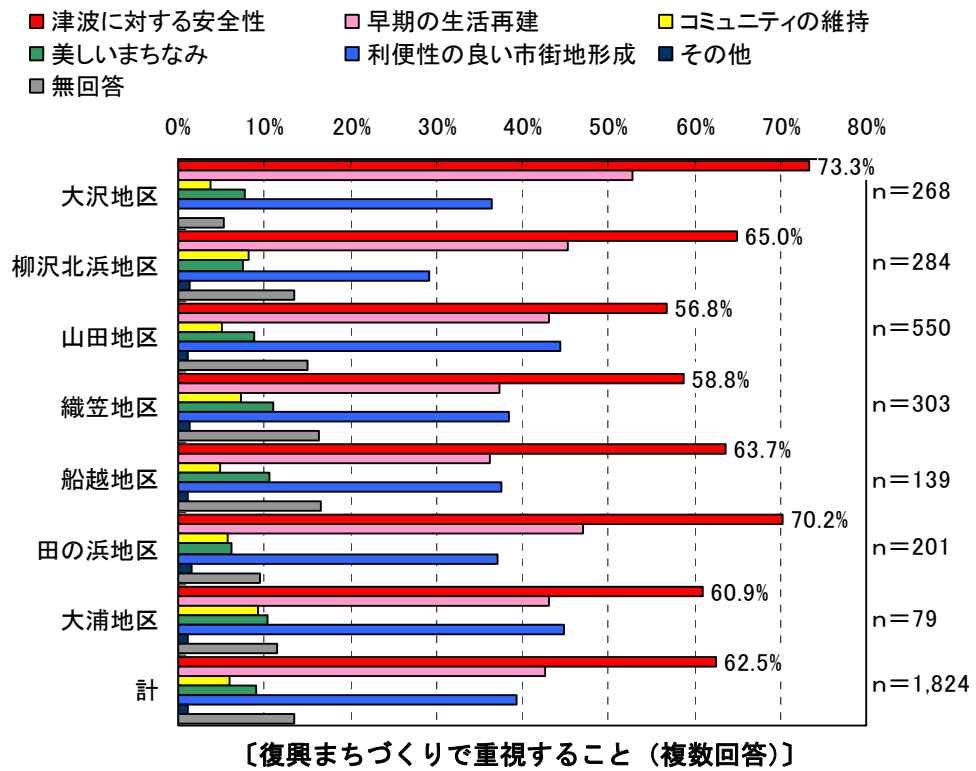


【田の浜地区】



【大浦・小谷鳥地区】

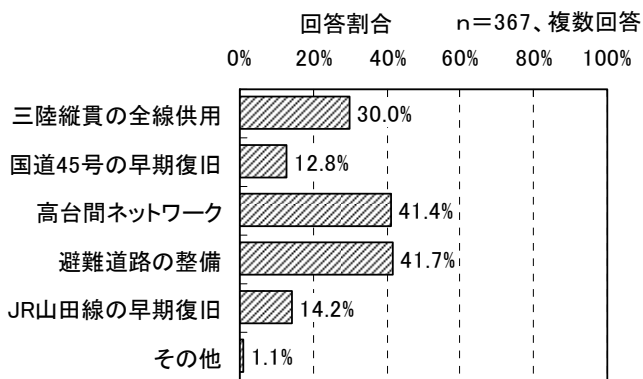
- ・復興まちづくりで重視することとして、全ての地区で「津波に対する安全性」が最も高くなっている。
- ・次いで「早期の生活再建」を希望する地区が多いが、山田地区と大浦地区は「利便性の高い市街地形成」を希望する割合も高い。



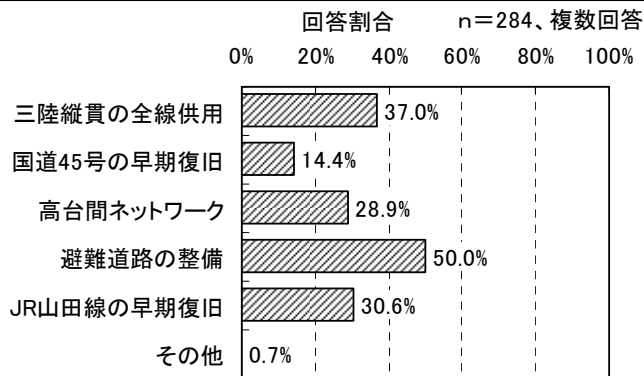


### ③ 交通体系について

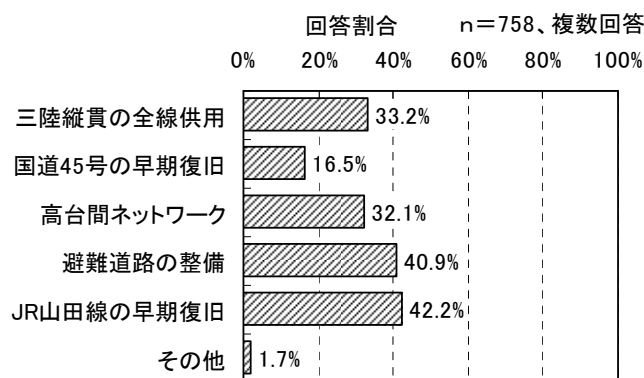
- ・柳沢北浜地区と田の浜地区では、「避難道路の整備」を約半数の人が期待している。
- ・山田地区では、「JR山田線の早期復旧」を望んでいる割合が最も高く、42.2%となっている。
- ・船越地区では、「三陸縦貫の全線供用」を望んでいる割合が最も高く、43.9%となっている。
- ・豊間根地区では、「JR山田線の早期復旧」が60.1%で最も多く、次いで「三陸縦貫の全線供用」が53.7%となっている。



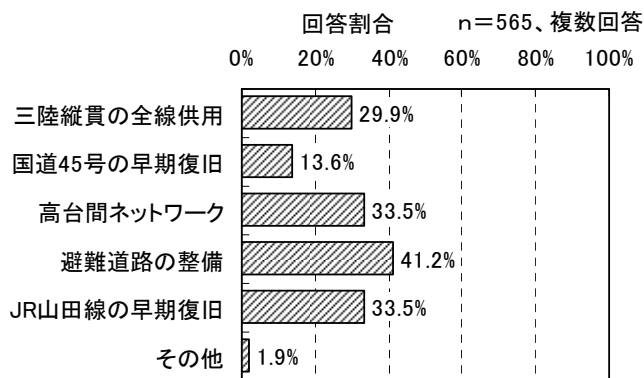
【大沢地区】



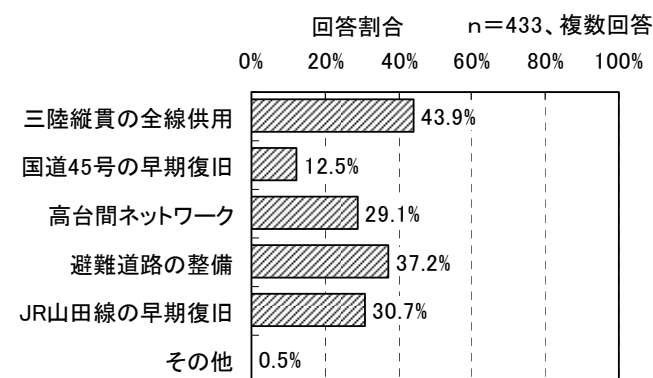
【柳沢北浜地区】



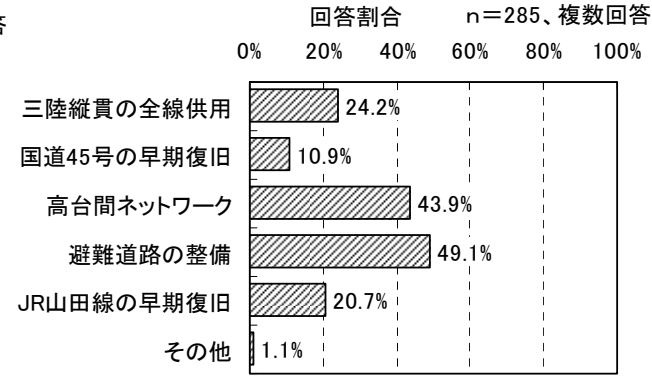
【山田地区】



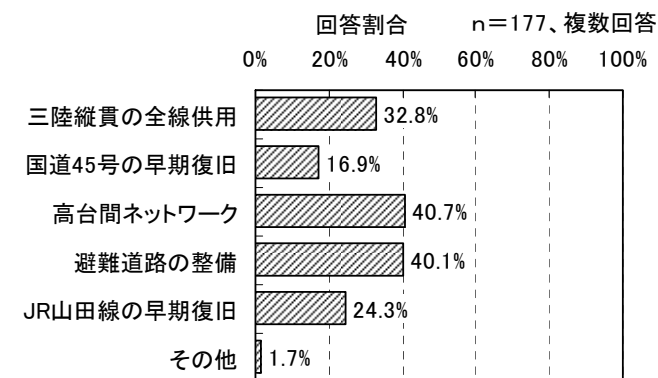
【織笠地区】



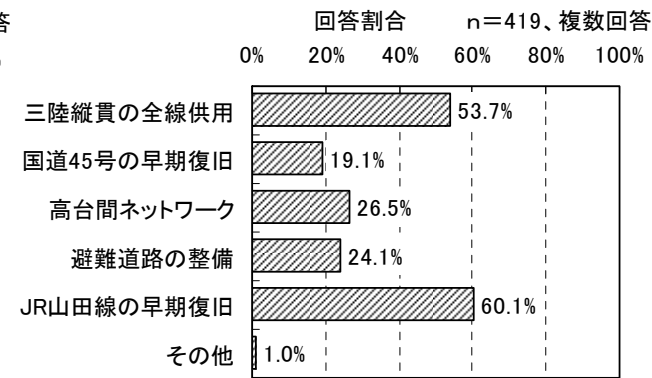
【船越地区】



【田の浜地区】



【大浦・小谷鳥地区】

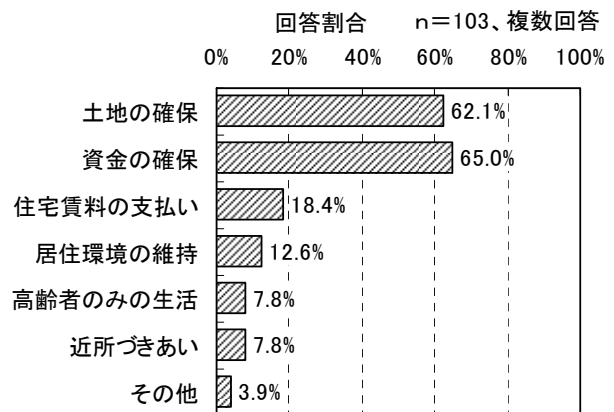
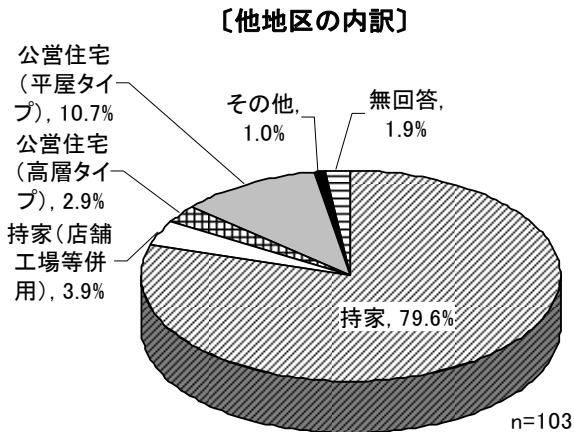
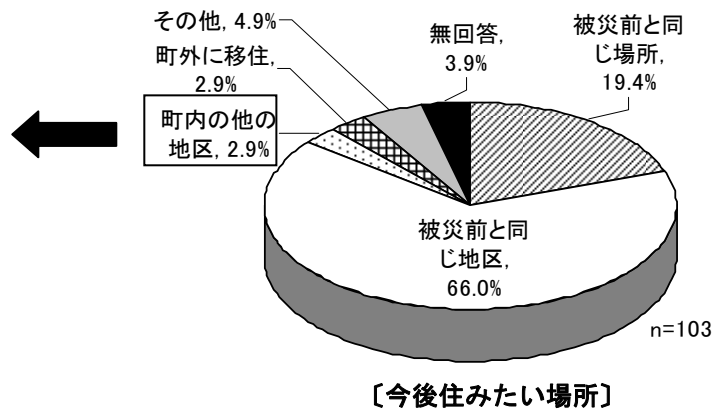
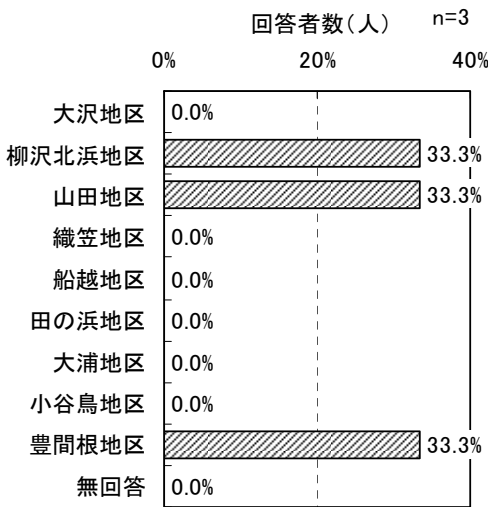
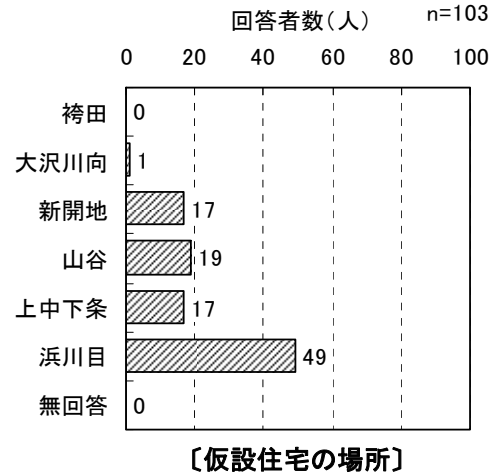
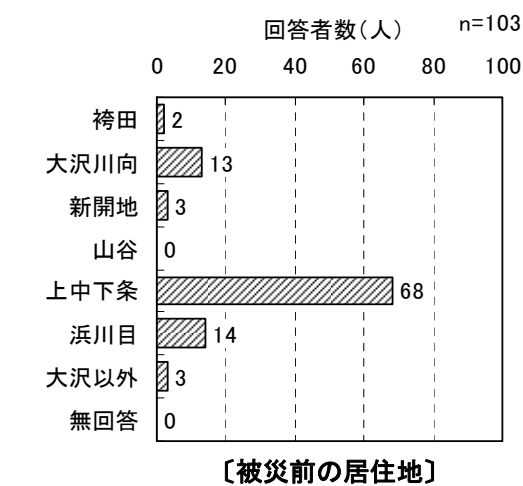


【豊間根地区】

#### 4. 仮設住宅居住者集計結果

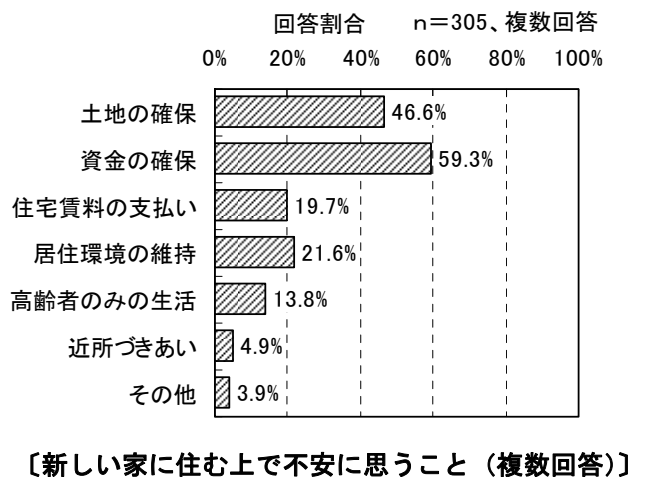
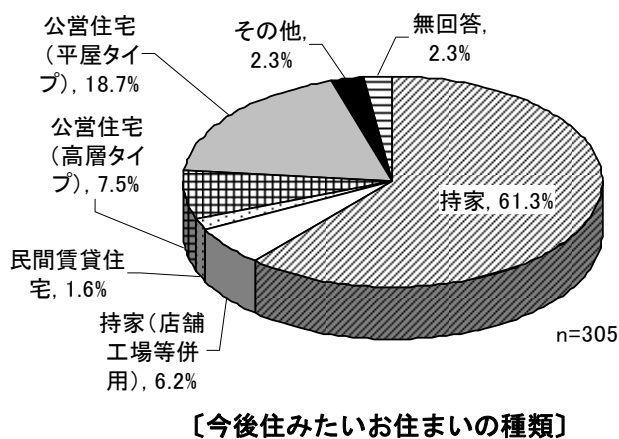
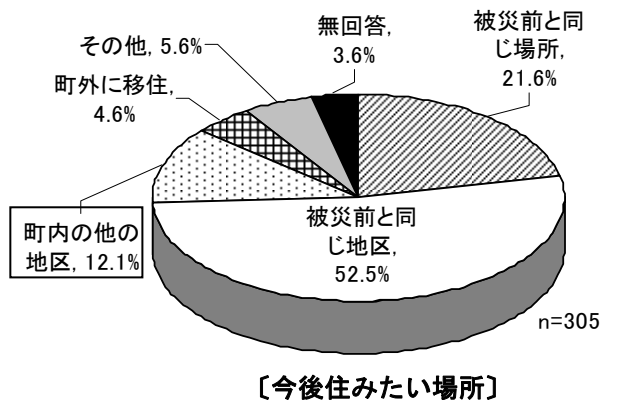
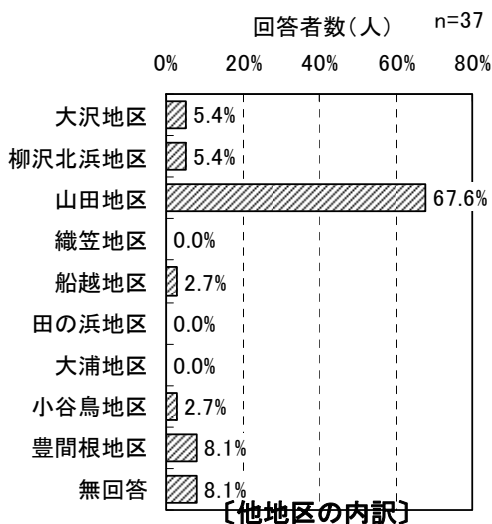
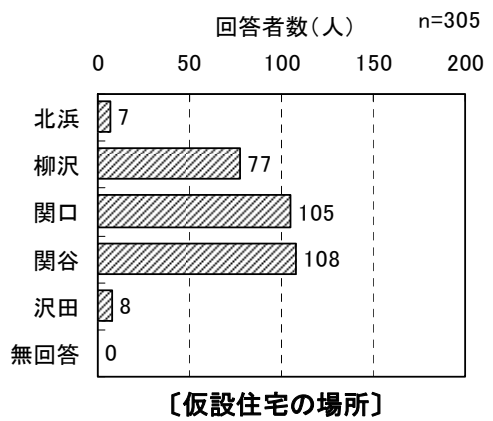
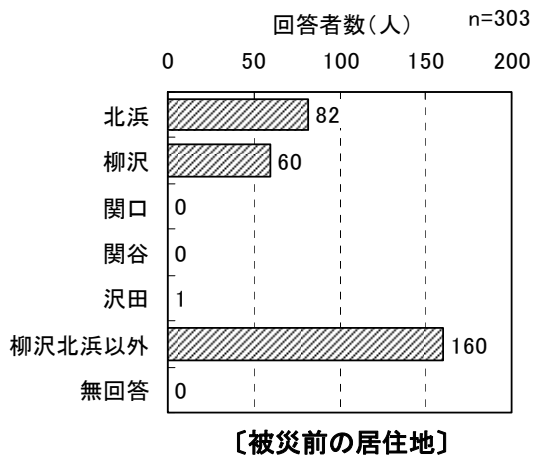
##### ① 大沢地区の仮設住宅

- ・仮設住宅に居住していると回答した 103 人のうち 100 人が被災前に大沢地区に居住しており、他の地区から来た人は少ない。
- ・今後住みたい場所として、「被災前と同じ場所」と「被災前と同じ地区」を合わせると 85.4%を占めており、地区外や町外への移転を希望している人は少ない。
- ・今後の生活について「資金の確保」(65.0%)と「土地の確保」(62.1%)に不安を持っていると回答した人の割合が他の地区と比べて高い。



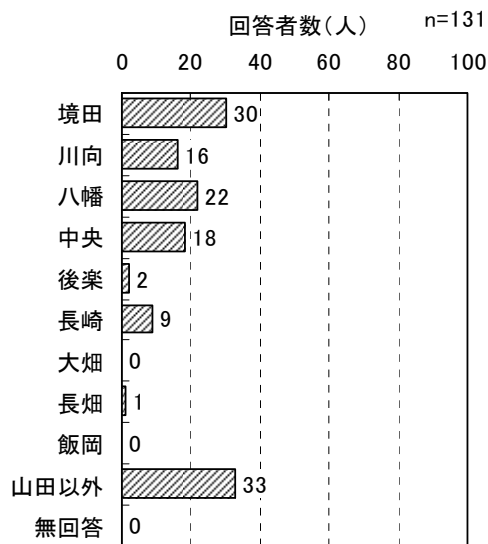
## ② 柳沢北浜地区の仮設住宅

- ・仮設住宅に居住している人の半数以上が、柳沢北浜地区以外からの居住となっている。
- ・仮設住宅に居住している人の 12.1%が町内の他地区への移転を希望しており、そのうち 67.6%が山田地区への移転を希望している。
- ・今後、公営住宅（平屋タイプと高層タイプ）を希望する人が 26.2%おり、高層タイプの公営住宅を希望する人の割合が他の地区と比較して高い。

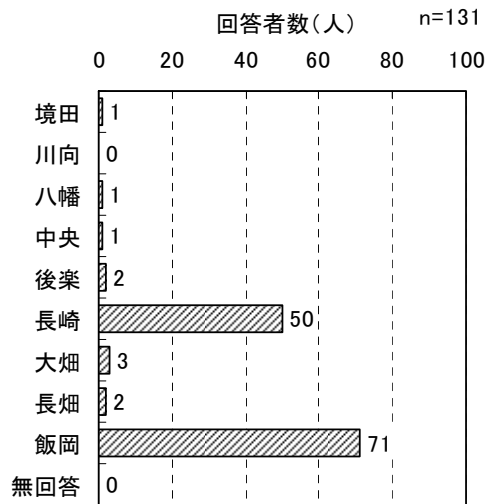


### ③ 山田地区の仮設住宅

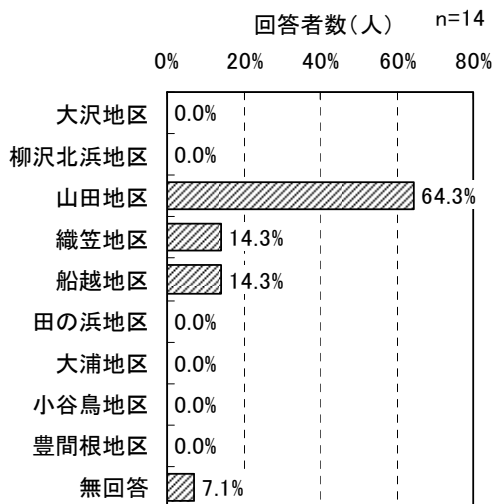
- ・今後住みたい場所として、「被災前と同じ場所」と「被災前と同じ地区」を合わせると 82.3%を占めており、地区外や町外への移転を希望している人は少ない。
- ・今後の居住形態として平屋タイプの公営住宅を希望する人の割合が 28.2%を占めており、他の地区と比較して高い。
- ・今後、不安に思うこととして「資金の確保」(51.1%)と「土地の確保」(38.9%)が高いが、他の地区と比較すると不安に思っている人の割合が低い。



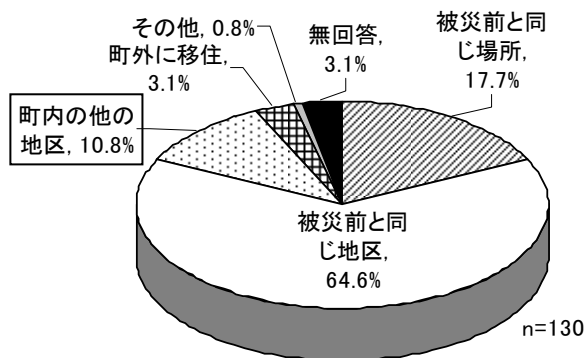
【被災前の居住地】



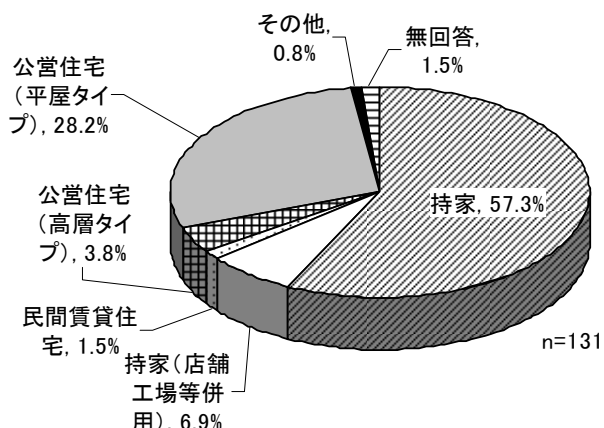
【仮設住宅の場所】



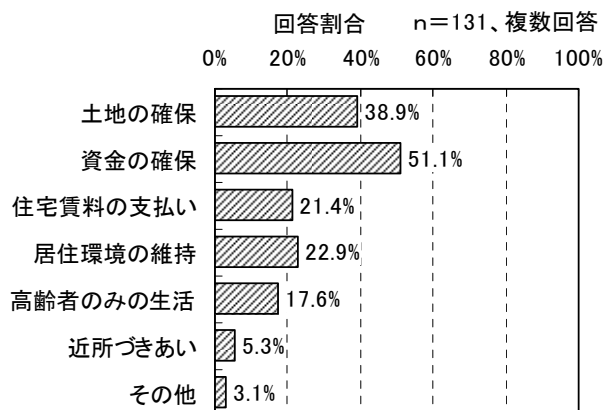
【他地区の内訳】



【今後住みたい場所】



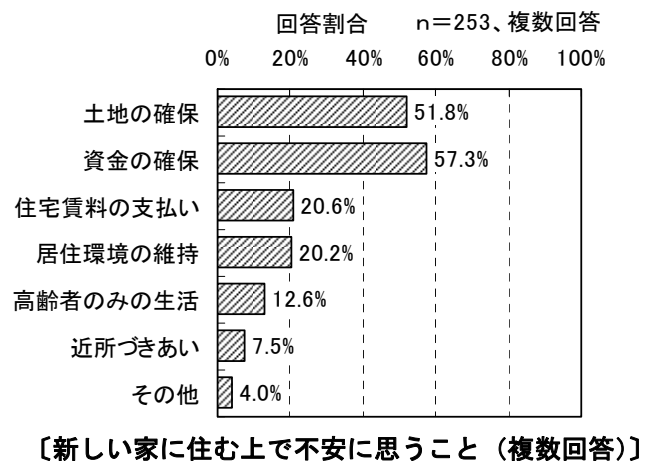
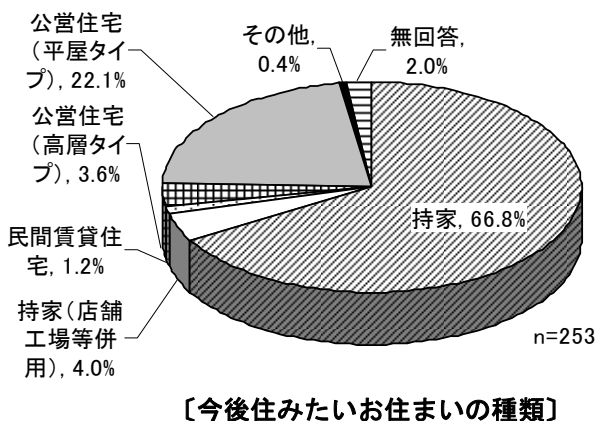
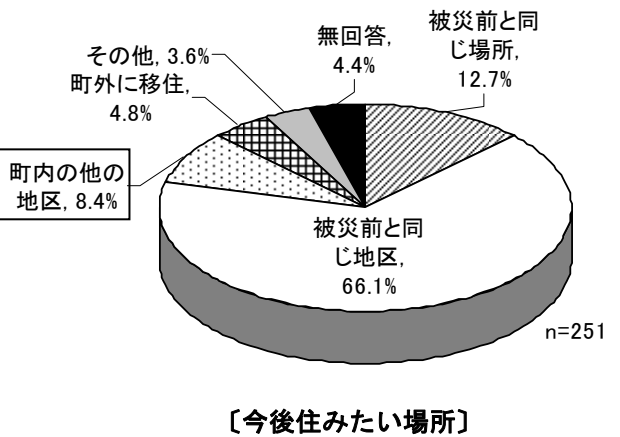
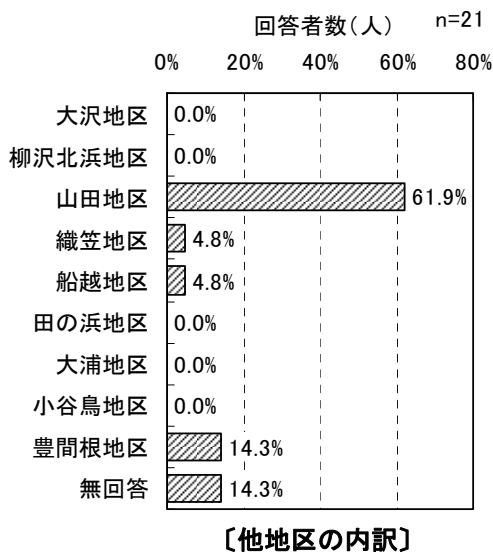
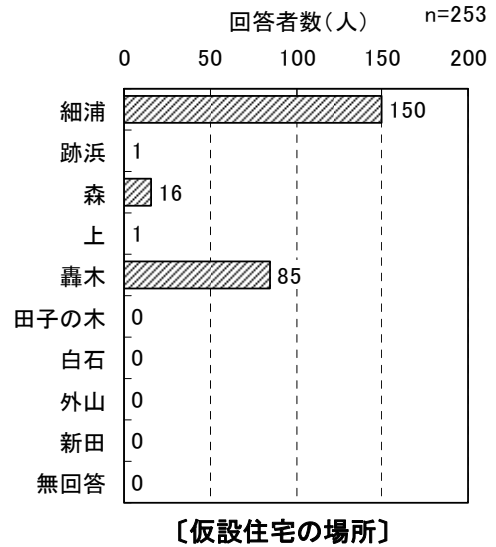
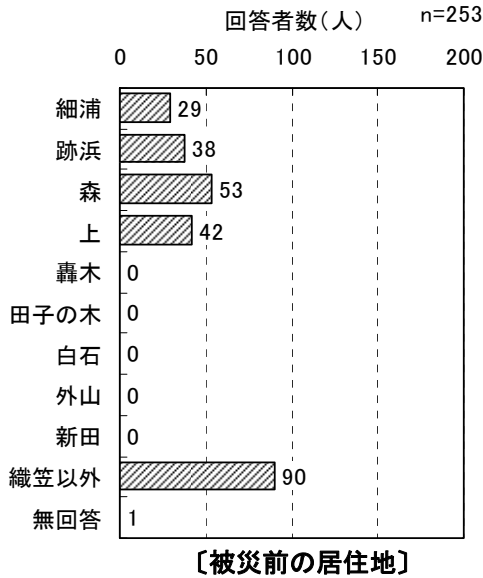
【今後住みたいお住まいの種類】



【新しい家に住む上で不安に思うこと(複数回答)】

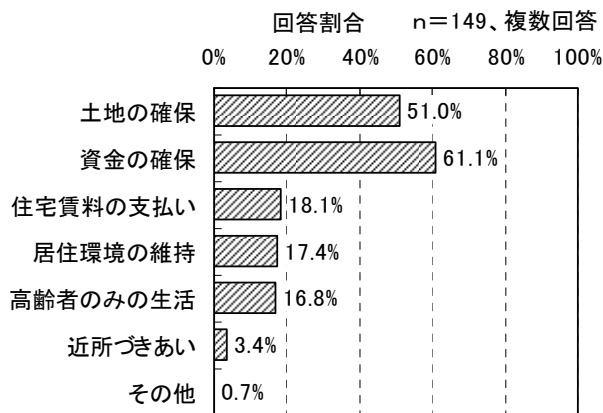
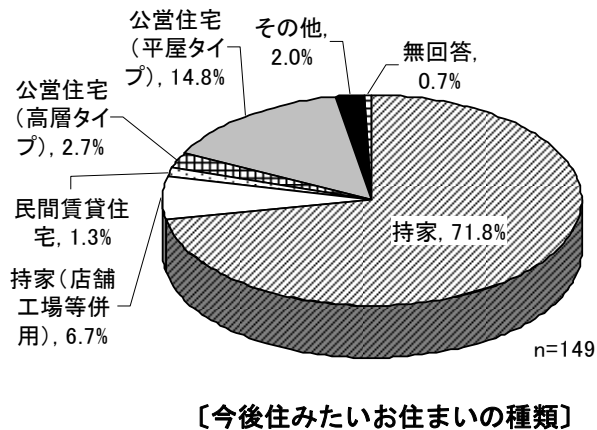
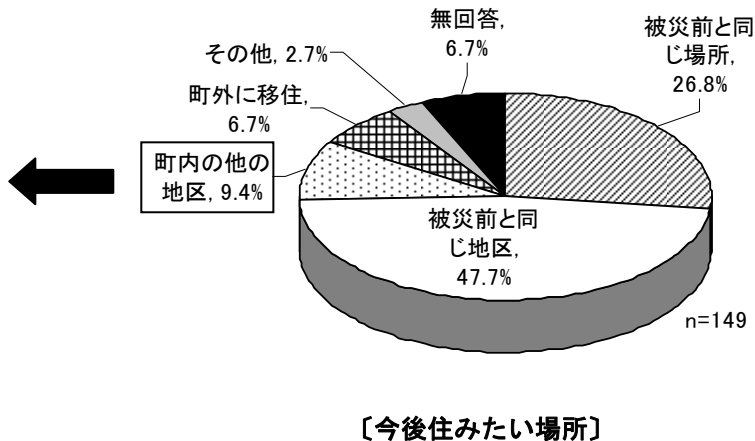
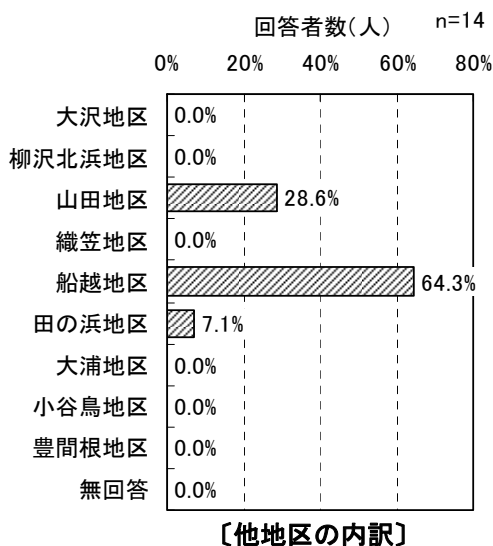
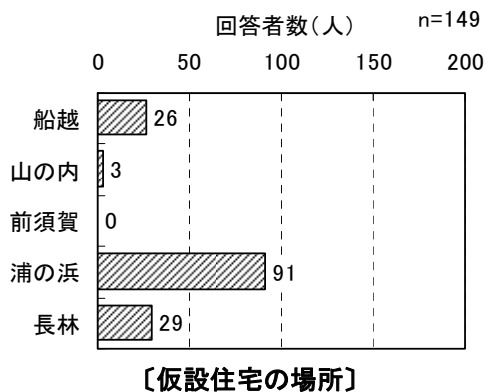
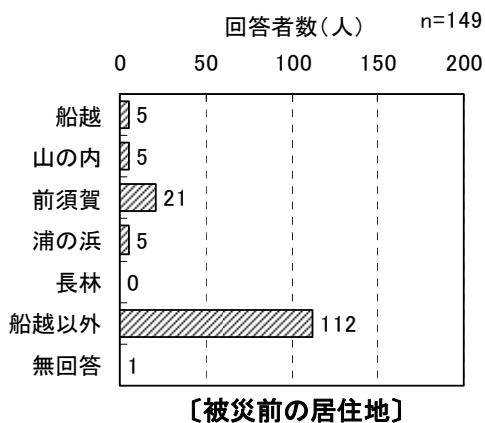
#### ④ 織笠地区の仮設住宅

- ・今後住みたい場所として、「被災前と同じ場所」と「被災前と同じ地区」を合わせると 78.8%を占めており、地区外や町外への移転を希望している人は少ない。
- ・今後の居住形態として平屋タイプの公営住宅を希望する人の割合が 22.1%を占めており、他の地区と比較して高い。



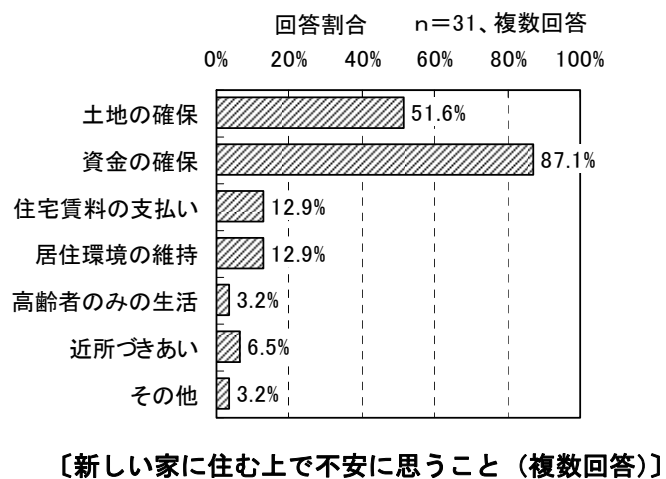
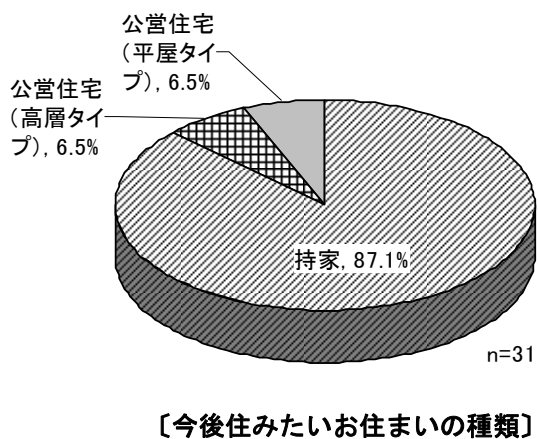
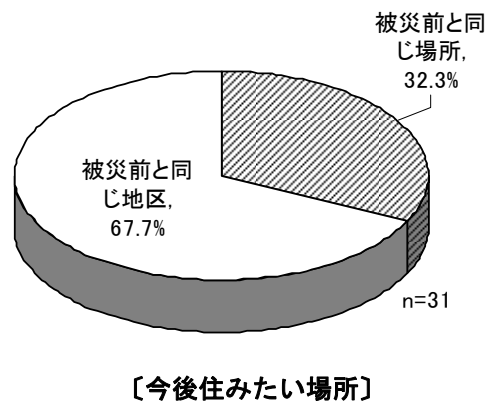
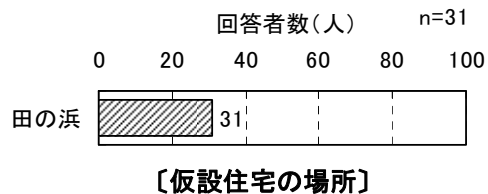
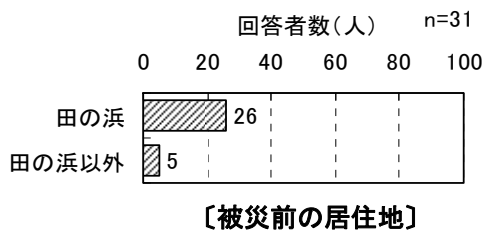
### ⑤ 船越地区の仮設住宅

- ・ 仮設住宅に居住していると回答した 149 人のうち 112 人が被災前に船越地区以外に居住しており、他の地区から来た人が多い。
- ・ 今後、不安に思うこととして「資金の確保」(61.1%)と「土地の確保」(51.0%)が高い。



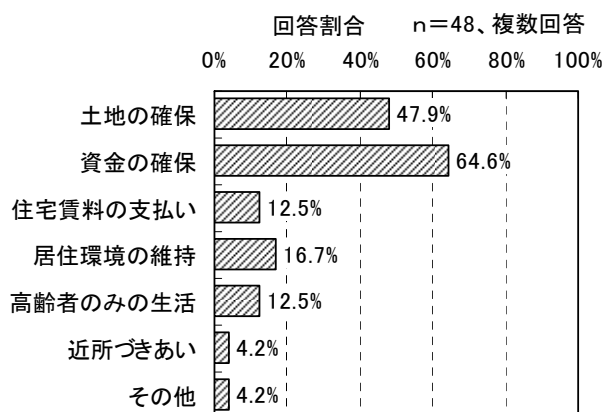
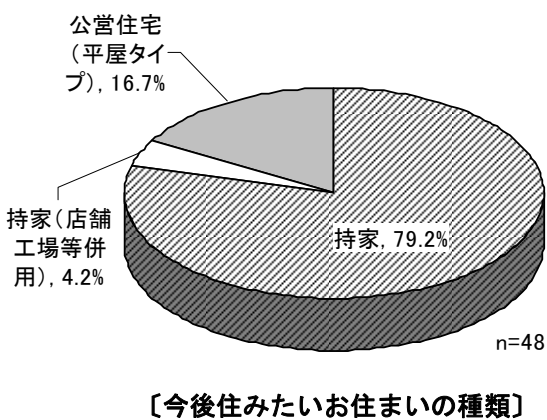
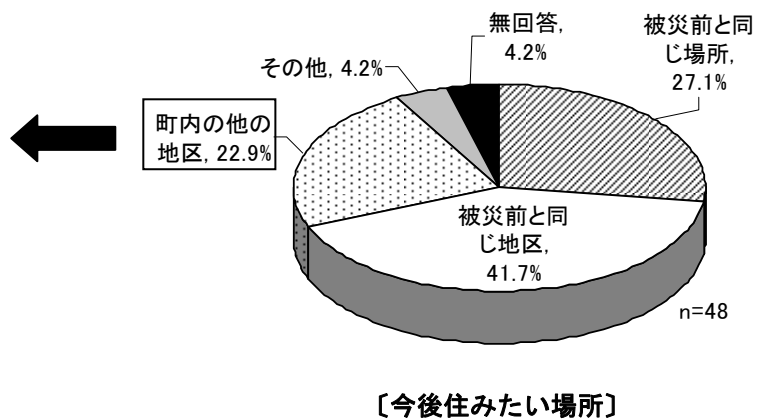
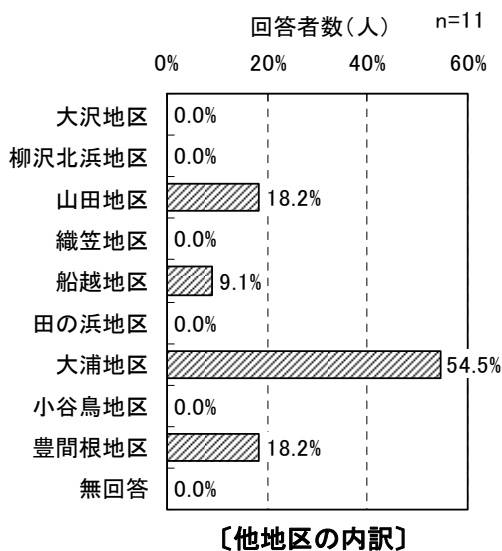
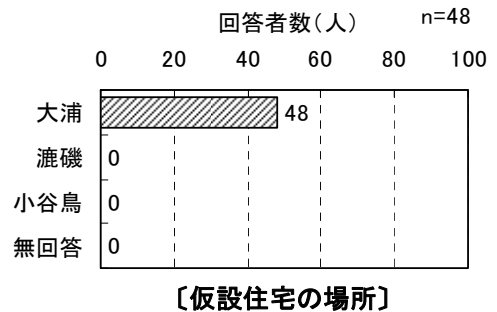
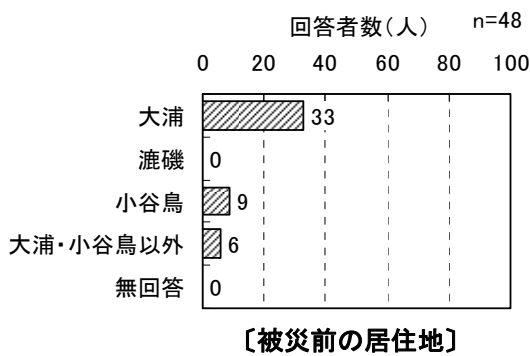
### ⑥ 田の浜地区の仮設住宅

- ・ 田の浜地区の仮設住宅に入居している人の全員が、田の浜地区へ残ることを希望している。
- ・ 今後の居住形態として持家を希望する人の割合が 87.1%を占めており、他の地区と比較して高い。
- ・ 今後、不安に思うこととして「資金の確保」と回答している人が 87.1%おり、他の地区と比較して高い。



⑦ 大浦・小谷鳥地区の仮設住宅

- ・仮設住宅に居住している人の 22.9%が町内の他地区への移転を希望しており、そのうち 54.5%が大浦地区への移転を希望している。
- ・今後、不安に思うこととして「資金の確保」(64.6%)と「土地の確保」(47.9%)が高い。





⑧ 豊間根地区の仮設住宅

- ・被災前の居住地をみると、山田地区が54人で最も多く、次いで大沢地区の20人となっている。
- ・今後住みたい場所として「町内の他の地区」が31.3%を占めており、そのうちの87.1%がそのまま豊間根に残ることを希望している。

